

第19回 皮膚科の臨床 優秀論文賞発表

本誌編集委員会では、昨年（第64巻、2022年）に掲載されたものを対象に優秀論文の選考を行ってまいりましたが、この度、下記論文に第19回「皮膚科の臨床 優秀論文賞」を授与することに決定いたしました。

複合胃腸薬パンシロン® 01 プラスの即時型アレルギーの診断後、日本麹菌から産生される消化酵素アレルギーが見つかった1例

米澤 栄里，加藤 敦子ほか（大阪回生病院，皮膚科）

60歳台，女性。パンシロン® 01 プラスを内服数分後に咽頭閉塞感を自覚した。成分ブリックテストでピオチアスターゼ（麹菌 *Aspergillus oryzae* を培養して産生されるアミラーゼなどを含有する総合消化酵素薬）が強陽性であった。その後、生の塩麴，米味噌を味見で舐め、耳の奥の痒痒が出現した。塩麴，米味噌，麦味噌（すべて *Aspergillus oryzae* を使用）は生でブリックテスト陽性，加熱すると陰性であった。塩麴材料の種麴（*Aspergillus oryzae* 孢子）および米麴も陽性であった。アレルギーコンポーネント検査では *Aspergillus oryzae* 由来の α -アミラーゼに対する特異的 IgE がクラス3であった。麹菌から産生される α -アミラーゼによる即時型アレルギーと診断した。消化酵素薬に入っている *Aspergillus oryzae* 由来の α -アミラーゼに感作し、麹食品にもアレルギーがおきたと考えた。

（第64巻 第7号，1237-1241頁，2022年）

選考評

著者らは、市販の胃腸薬による即時型アレルギーが疑われる症例に成分別ブリックテストを施行し、消化酵素薬であるピオチアスターゼが原因であることを明らかにした。さらにこの症例が塩麴と米味噌に対し同様のアレルギー症状を示したことから、麹菌に関連する物質が原因ではないかと考え、アスペルギルス属のアレルギーコンポーネント検査を行った。その結果、 α -アミラーゼに陽性であることが示され、同酵素が麹菌の菌体および産生物に含まれること、ピオチアスターゼは麹菌由来であり α -アミラーゼを含むことから、 α -アミラーゼが原因であると結論した。本論文に詳細に描かれている上記の原因追究過程は楽しい知的興奮を呼び覚ますものであり、消化酵素薬に対するアレルギーという稀な病態を解明するために発揮された著者らの知識、技術、努力は驚嘆に値する。胃腸薬と麹菌という一見無関係なものが共通のアレルゲンで繋がっているという意外な事実を明らかにしたことを高く評価し、優秀論文に決定した。

受賞のことは

2022年度優秀論文賞に選出いただき、大変光栄に思います。

本論文は消化酵素薬に対する即時型アレルギー反応を示すだけでも珍しい症例でしたが、食品、特に日本食の中心となる味噌や麹食品に対してもアレルギー反応がおこるようになり、患者さんの生活のためにも原因究明が必要と考える症例でした。

アレルギー診療は例えと探偵のような仕事であり、患者さんの実生活のために事実を突き詰めていく必要があるものだと個人的には思っておりますが、本症例ではアレルギーをおこした薬および食品の両者の間に「日本麹菌」という共通事項が浮かび上がりました。しかし、消化酵素薬，味噌，麹，真菌，発酵などの基本的な知識がなかったため、図書館で食品学や発酵の本を借り勉強するところから始めました。ですが、奥深い世界であり太刀打ちできず、真菌アレルギー検査の専門家である千里金蘭大学生活科学部食物栄養学科教授 鎌田洋一先生、麹菌の専門家である日本薬科大学医療ビジネス薬科学科特任教授 北本勝彦先生に直接ご連絡し、多数の疑問に丁寧に答えていただき、本論文を完成させることができました。

アレルギー診療において患者さん自身の時間的制約や、精査希望がない場合「アレルギーをおこしたであろうものを避ける」のみで原因究明できずに診察を終えざるを得ないことがよくありました。本論文は患者さんの調べたいという思いが強かったこと、および当院ではアレルギー検査について看護師さんの多くのサポートもあり検査体制が整っており、精査を行うことができたと思っております。

多数のご指導および査読いただいた先生方、編集者の方々、論文に携わっていただいたすべての方々にこの場をお借りし深く感謝いたします。

- 受賞論文の筆頭執筆者には、賞状ならびに副賞として金一封・記念品を贈呈いたします。
- 本誌編集委員会では今後も優秀論文賞の選考を行ってまいります。投稿規定を熟読のうえ、奮ってご投稿ください。